

ハ便宜に供する所ありしが大正十三年五月の爭議以來之を獨立して職  
工の管理に移さんとする運動起り工場協議員會の議題となるに及  
び會社は職工の自治觀念の發達の爲めに之れを是認し同年十二月末  
有限責任購買組合博文館共勵社として成立し該社は從來物品供給  
部に充てたる家屋並に煙草小賣所を其の供無償使用せしめ且つ  
商品及流通資金に充て金七千圓を無利息貸與し尙職工に対する樹  
賣金回収の便宜を計る事とした。

### 七、軟派切崩と作業開始

一月二十四日、會社は軟派と目する千三百名に對し、  
往復端書を以て復職勸告の書面を郵送したるが期待せる  
如き効果なく回答せる者約三十名に過ぎざり其の他は給料  
受領方の通知書と共に組合幹部に一括提出し結束に力め  
た。

於茲會社は本月二十五、六日頃より職工長等をして切崩  
を爲さしめつゝありしが、取引の關係上急遽作業着手の  
要に迫られ本月二十九日より自動車三臺を以て軟化職工  
の狩出を行ひ、應招せる職工は悉く工場寄宿舎に收容し  
迫害を回避せしめた。

かくて今三十日迄に約八十名の復帰者を得、翌三十一  
日より旧精美堂工場側は卒して作業を開始し、二月一日  
より旧博文館工場側も職工長以下百三十五名を得て作業  
を開始した。

### 八、友誼團體の應援

出版労働組合よりの花撒により各地よりの人的應援連  
日二三組あり且つ一月二十三日の日本労働組合評議會擴  
大中央委員會を機として上京せる関西方面の組合幹部は  
交々會社に決議を提示し、或は各集會所を巡回して激励  
した。

物的應援の詳細は不明である。